

会議の概要

令和6年度 第7回 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和6年12月10日（火）18:30～20:30
場 所：改善センター 全体協議：多目的ホール（1階）
グループ協議：幼稚園 多目的ホール
大山小 農事研修室（2階）
玉井小 農事相談室（〃）
大玉中 健康相談室（1階）

（進行 指導主事 渡邊 博樹）

1 開会のことば （コミュニティ・スクール委員会副会長 館下 愛理）

皆さん、こんばんは。これより令和6年度第7回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会）を始めます。よろしくお願いします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 渡辺 敏弘）

改めまして皆さん、こんばんは。本日もお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

本日の中心議題となるのは、次年度の各幼稚園・学校の運営方針についてご意見をいただくことです。現在、各幼稚園・学校では次年度の教育課程編成を進めているところです。そこに地域の皆さんの意見を反映させるということが、学校運営協議会の大きな役割の1つとなっております。ぜひ、積極的なご発言をお願いしたいと思います。

さて、先月金沢市で開催されました「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」に参加してまいりました。フォーラムの様子については、YouTube動画が公開されました。本日配付の資料のQRコードからご覧いただくことができます。お時間のあるときにご覧いただければありがたいと思っていますのですが、その中で私として特に印象に残ったのが、子どもたちが関わる取り組みがどんどん増えてきていることと、地域防災をテーマとするような取り組みが多くあったことです。本村でも中学生と共に熟議を行う取り組みであったり、また、これも今日の議題になりますけれども、2月に行われるコミュニティ広場の取り組み等がありますが、こういったチャレンジを一層進められたらなと感じているところです。

また、学校が災害時に避難所となることもあります。地域の防災組織づくりを進めている村の地域づくりの観点といったところから防災について取り組んでみる、というのも1つの方向性であると感じました。このフォーラムは来年仙台市で開催されますので、来年はぜひCS委員の皆さんの中から、代表で何名かでも参加していただければありがたいと考えております。

少し長くなってしまいましたけれども、本日もどうぞよろしくお願いいたします。



3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （CS委員会会長 矢吹 吉信）

皆様、改めましてお晩でございます。本日もお忙しい中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。早いもので、この委員会も7回目を迎えました。

本日は、CS委員会が主催である来年2月15日（土）に予定しておりますコミュニティ広場について協議がございます。今日も盛りだくさんの会となるのですが、私はコミュニティ広場では毎回たくさんの元気をいただいております、今回も力を入れて実施したいと考えています。皆さんのご意見をいただきながら良いものを創り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

次に、令和7年度の各校園の運営方針についての熟議もあり、非常に濃厚な会議となりますので、ご協力をいただきながら進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



4 諸連絡

○ 本日の日程と内容について説明

- ① おおたまふれあいフェスタアンケート児童・生徒集計結果報告
- ② 第6回おおたまコミュニティ広場について（全体）
- ③ 令和7年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針についての熟議（各校・園毎→全体）

5 協 議

（ 座長 CS委員会会長 矢吹 吉信 ）

（1）おおたまふれあいフェスタアンケート児童・生徒結果報告 （ 指導主事 渡辺 博樹 ）

～ 略 ～

＜子どもたちの感想から言えること＞

○ かなり意義のあるフェスタであったということ。これをさらに良い方向にもっていけるようにしたい。

（座 長）この件について皆さんから何かご意見等ございますか。今年は分散開催ということで、私もほとんど（の活動）に参加できたので非常に良かったなという印象を持っております。課題もいろいろあるかとは思いますが、子どもの意見を見ますと、やって良かったなと改めて感じる部分がございます。

皆さん、大丈夫でしょうか？

（CS委員）・・・特にない様子・・・

（座 長）いい意見が多かったということで嬉しい限りでございます。

（渡辺指導主事）来年度の方針性は次の通りです。

5月23日（金）スポーツ交流イベント＜改善センター、屋内運動場＞

9月26日（金）大名倉山登山、安達太良登山 … 予備日：10月3日（金）

10月 1日（水）昔遊び・グラウンドゴルフ＜改善センター、屋内運動場＞

ミニ運動会＜改善センター、屋内グラウンド＞

オリエンテーリング大会＜県民の森＞ … 予備日：10月2日（木）

（2）第6回コミュニティ広場（第16回大玉村教育フォーラム）について

（座 長）それでは（2）の第6回おおたまコミュニティ広場についてに移ります。事務局より説明をお願いします。

① 事務局案の説明 （渡辺指導主事）

ア 第6回コミュニティ広場（第16回教育フォーラム）開催計画（案）の説明

- 日 時：令和7年2月15日（土）9：00～11：45 於 改善センター
- 参加者を限定しない。（地域住民を含める。130名程度になる模様）
 - ・地域住民を限定しない。
- 第1部「大玉村の魅力と未来の可能性を発信しよう！」小・中学生の発表
 - ・村内在住者に発表の様子をライブ配信する。（『広報おおたま1月号』に配信QRコード

を掲載)

- ・小・中学生の発表は2月15日の発表終了後から2月19日まで再度配信する。
 - 第2部 フリートーク … テーマをどうするのか？
 - ・子どもたちの生活の課題の現状を知るとともに、その解決に向けて様々な取り組みを一緒に考える。
 - ・地域とつながりのある活動の充実に向けて、地域や企業、保護者が子どもたちや学校と一緒にやってみたいことや、子どもたちや学校が地域や企業、保護者と一緒にやってみたいこと等について意見交流を図る。
- 例①「子どもたちが自ら学ぶようになるためにはどうしたらよいか？」
②「差別もなく、みんなが仲よく暮らせる村にするためにはどうしたらよいか？」
③「地域を活性化していくためには、どのような教育をしていけばいいか？」
- 役割分担 … CS委員については去年と同じようにしたが、どうか。どうしても変えてほしい場合は申し出てほしい。

② 質疑応答

(座長) まず、1部、2部のテーマでございますが、1部については例年通り子どもたちの発表です。2部については一応例が挙がっておりますが、皆さんから「今年はこのことをやりたいんだ」とか、「チャレンジしてこういうことを」とかご意見をお持ちであればお願いします。3つ目の係分担については、例年通り渡邊先生に段取りしていただいておりますが、変えて欲しいという意見がありましたら声をかけていただければと思います。

1部は例年小・中学校の代表に発表してもらっていますが、これについてはいかがでしょうか。

(渡邊指導主事) 各校では総合の学習の延長で発表してもらっていました。テーマの内容を変えてしまうと、学校が新たに発表内容を変えてやらなくてはならず、かなりの負担がかかるということで、子どもたちが学んだことをそのまま発表する方がいいと考えます。

(座長) 新たな取り組みをやると先生方が大変になるので、引き続き今までやってきたような発表になると思います。あの場で子どもたちが一生懸命発表している姿を見ると、大人はみんな笑顔になっているのでいいのではないかと考えております。そうすると2部ですね？

(渡邊指導主事) 少し付け加えさせていただくと、一昨年度までは「子どもたちが考えたことをどうやったら実現できるだろう」という話し合いだったのですが、かなりハードルが高くて難しいものでした。その辺の調理場でつくったものは製品としては認められないので、かなり大きな施設を造って、そして衛生管理をやって初めて製品ができるという形になります。それではちょっとハードルが高くて、なかなか難しいということで、昨年度のように「子どもたちの問題を想起して、子どもたちとみんなとで話し合っていきましょう」という形に変更させていただきました。

今年もそのような形で臨みたいと思うのですがいかがでしょうか。やはり、子どもたちがよく話してくれたということが昨年も好評で、「子どもたちからいろんな考えを聞いた」、「大学生等からのアドバイス等が非常に良かった」という感想も多かったものですから、やはり子どもたちが話しやすいテーマが一番いいのかなと思っております。身近なものを考えていただければありがたいです。

(座長) そうですね。せっかく子どもたちや大学生が参加してくれるので、活発に意見を出してくれるようなテーマが一番いいと思います。例えば、例③の「差別もなく、みんなが仲よく暮らせる村にするためにはどうしたらよいか」について話し合うと、子どもたちから活発な意見が出ると思います。各委員の皆さんからご意見を伺います。

(後藤吉委員) 正直今思いつくことはないのですが、会長がおっしゃったように、子どもたちがしゃべりやすいテーマを考えた方がいいと思います。確かにそれが実現に至らないということもあるとは思いますが、去年は私のグループの子がすごくしゃべる子だったので、とてもよかったなという感想を持っています。

(田邊委員) 私たちの去年のグループも素晴らしかったんですよね。大人がはっとさせられるような

意見ももらったので…。

やっぱり子どもたちの学力の件とかもどうなのかなというところもあるので、例①の「自ら学ぶ～」この文言そのままでもなくて、もいいので、子どもたちの実態はどうなのか子どもたちから話を聞かせてもらってもいいのかなと思いました。

(菊地委員) 私もすぐには思いつかないですけども、子どもたちからたくさん意見を引き出したいので、子どもたちが話しやすいようなより具体的なテーマだと思いいのかなと思いました。



例①の「自ら学ぶ～」でもいいとは思いますが、少し抽象的な感じもするので、子どもたちが話しやすいレベルまで言葉をかみ砕くと思いいのかなと思いました。テーマの方向性としていいと思います。

例②の「差別もなく～」についても、他の市町村から移住してくる人も増えているし、そういう実態を踏まえていて、テーマとしてはいいのではないかと思います。

(安田委員) やはり、これから大玉を背負っていただく子どもたちなので、どういうふうにしたら大玉をよくできるかについて考えてほしいです。

(座長) そうすると、学力も大切ですけども、安田さんからすると②がいいということですね。

(安田委員) 自分たちがこれからこんなふうないい村にしていきたいかとかなので、例②ですね。大玉をもっと活性化させていくような子どもたちの意見を聞くのもいいのかなと思っています。

(平委員) 今3つの例が出ているのですが、どれもいいテーマだと思います。身近なこととして考えられるように、子どもたちに分かりやすく本当にピンポイントに「〇〇〇〇についてどう思う？」みたいな感じのテーマになっていればいいのかなと思います。どれか1つに絞って…。

(狩野委員) 例①のテーマがいいのではないかと思います。読書活動についてですが、大山小の学校運営協議会の折も話させていただいたのですが、学力に関わりが深いものであるので、取り上げてもいいのではないかと思います。

(佐藤史委員) 他の方からも意見があったのですが、子どもたちが分かりやすいテーマというのが必要だと思います。3つの中だと、子どもたちが身近に感じているのが勉強のことなのかなと思うので、大人から見た「学ぶ」というのではなくて、当事者の子どもたちがどのようなしたら授業が楽しくなるのか、どんなふうにしたらもっと学びたくなるのか等の意見を出し合い、話し合ったことを学校でも生かしていければいいのかなと思いました。

(岡委員) 佐藤さんからもお話があったのですが、子どもたちが自分で考えて、こういうものならやってみたいなという方法を聞くいい機会かなと思っています。

この間の大山小学校のオープンスクールの時に肥満と偏食が多いというお話もあったので、どんなことをやったらいいのか、どんなタイミングでどんな運動をしたらいいのか等について、子どもたちの目線で「こんなのだったらやってみたいな」という考えを聞いてみるのもいいのかなと思います。

(今井委員) 私は①の「子どもたちが自ら学ぶ～」がいいと思います。「自ら学ぶ」という言葉は、ちょっと堅いなという印象を受けるので、「楽しんで学ぶ」の方がいいのではないかと…。どうしてこの勉強をしているのか、これがどういったところに生かされるのか、そして、そのために子どもたちが「これを学ばなければならない」という学びに入る方法を工夫してみるのもいいのではないかと考えます。堅く入らないで、「楽しめるような学びにするためにはどうしたらいいか」という話し合いの方が、子どもたちも盛り上がるのかなと思いました。

(吉田副会長) 私は、①については、子どもたちがというより大人の目線で、私たちが思う楽しい授業や勉強というふうに感じました。子どもの目線で話し合うのであれば、「子どもたちが」という言葉を使わない方がいいのではないかと思います。

②については、今人権のことを作文に書いているお子さんが多いですし、すごくはっとさせられる内容のものもあったりするのでいいと思います。差別のことだったら、例えば、男女の差別についてとか、国の差別についてとか、また、単純に「どうして女子の制服はスカートなのか」のような具体的なテーマにすれば話しやすいのかなと思います。

具体的なテーマをいくつか挙げて、その中から自分たちのテーブル（グループ）ではこれについて話すという形です。

③の「地域の活性化」については、いくつかテーマをつくり、さらに小さなサブテーマを何個か作って、テーブル（グループ）ごとに選択して話し合うのもいいのかなと考えます。とにかく、子どもたちがこれについて話したいというきっかけになるようなテーマを出してあげたいです。

私個人としては、①がテーマを作りやすいかなと…。授業とか今までの勉強とか読書とか、勉強の中で細かくテーマを作ってみるといいと思いました。

(舘下副会長) 私が子どもたちに聞いてみたいと思ったことは、中学生と小学生で義務教育なので、「何で学校に行くんだろう」みたいなざっくりとした大きいテーマです。

そして、「なぜ勉強しなくてはならないんだろう」とか「なぜ友達と仲良くしなくてはならないんだろう」とかの話の方向性が子どもたちから出てきたらいいなあと思いました。段階的に考えてみるのもいいと思います。

(座長) CS委員の皆さん、ありがとうございました。ここで先生方にご意見をいただいてまとめていきたいと思います。久保寺校長先生からお願いします。

(久保寺校長) ①の子どもたちが自ら学ぶようになるためには、勉強が好きになればいいのかなと思いますので、「勉強が好きになるにはどうしたらいいか」というふうに投げかけると子どもは話しやすいのかなと思います。人間というのは、好きになれば勉強し、好きなことはどんどんやるものです。「勉強＝嫌い」というのではなくて、そこをどうしたら好きになるのかなというふうな投げかけだといいと感じました。この①は、小学生でも中学生でも話しやすいと思いました。

②は、「差別もなく～」となると差別がいっぱいあるかのように聞こえ、私の村は差別なんてないよねとピンときません。「みんなで仲よく暮らせる村にするためにはどうしたらいいか」ということで話し合ったらいいのではと思います。というのは、中学生は人間関係で悩んでいる子がたくさんおり、そのトラブルもあって先生方もかなり苦労しています。その辺を中心として「みんなで仲良くなるためにはどうしたらいいか」とか、人付き合いが上手になるにはどうしたらいいかのようなテーマがあってもいいのかなと思いました。

(澤藤校長) 話し合うということは課題があるからということだと思います。学校で感じていることについては先程から話が出ていますが、①、②は教員も子どもたちも課題として持っていると思います。①は学校の勉強＋家庭学習、②は「差別」という言葉はきつい表現ですが、「仲よく」については課題でもあり、子どもたちも自分事として考えやすいのではないかと思います。身の回りや学級等のことをイメージすれば話しやすいと思いますのでどちらもいいかなと思います。

(五十嵐校長) せっかく子どもたちが参加する素晴らしい機会だと思います。子どもたちにとって年上の人に自分の考えを表現するとか、学校以外の方に話をする素晴らしい機会だと思いますので、ぜひ子ども自身が身近な話題、子どもが話したい内容、そして、子どもたちが日々取り組んでいる内容だと話しやすいのかなと思います。

①、②、③に関わらないことかもしれませんが、キーワードだけ言います。

・メディア ・SNS ・読書 ・いじめ問題 ・環境問題
・ジェンダー問題 ・よりよい生活環境

これらは、各教科や特別活動等の中で学んでいますので、子どもたちは話やすく、自分の考えを持ちやすいのではないかとと思います。

また、子どもたちからテーマを募っても面白いのかなと思います。熟議の最初に、自分からどうしてそのテーマを設定したのか等について報告できれば、よりみんなで考えを共有できるのか

など感じました。

(二瓶副園長) 今まで私が参加してきたコミュニティ広場で子どもたちと話をしてきたのは、やはり地域について話をして、こんなふうな大玉村になったらいいよねということでいろいろ案を挙げたりしました。でも、それはなかなか実現するのが難しいということだったので、①のテーマなら先程も意見が出たように、こんなふうにしたら勉強が楽しくなるというアイデアや子どもたちの話等を聞いて、それを幼稚園・学校に活かして実現できるような気がするのでもいいと思いました。

(後藤副園長) 大人がテーマを決めるのではなくて、五十嵐園長先生がおっしゃったように、子どもからどんなことを話し合うかテーマを決めてもらうのも1つの方法かなと思います。その中から1つに絞るのではなくて、何個かあって、その中から話し合いたいことをグループごとに選択して決めるのもいいのではないかと思います。それも自主的にということにつながるから、子どもたちの自主性に任せてやるのもいいと思います。

(座長) みなさん貴重なご意見ありがとうございます。「非常にまとめやすい」、「言葉をもうちょっとやわらかく」とかのご意見もありました。子どもにテーマを募るという意見もありましたが、学校のスケジュール的に大丈夫であれば、私もそれはやっていただきたいなと思います。

(渡邊指導主事) きちんと子どもたちの意見をテーマに生かすためには、子どもたちにある程度のアンケートをとって集約する必要があります。ただ、1月の正月明けには案内を発送する都合上、2学期中に全てを決めておかないと(日程的に)厳しいところがあります。

子どもたちを主体としたテーマがいいと考えると、①なら「楽しく本を読んだり、勉強したりするにはどうしたらいいか」、②なら「みんなが仲よく暮らせるにはどうしたらいいか」ぐらいが丁度いいのかなと思います。子どもたちを主体にするいいと気づかされたので、そんな感じになるのかなと思いますが、いかがでしょうか。

(座長) 非常にいいご意見をいただきましたので、渡邊先生がおっしゃったような形で①がメインとなってくるとと思いますが、「①学習」と「②仲よく学校生活ができる」、この辺をテーマとして絞っていくという形で進めていくことですね。

(渡邊指導主事) 主体を子どもたちに変えて、例えば、学習面がいいか、あるいは人権についていいのかとか…。つまり、子ども目線で、簡単にかみ砕いたテーマをいくつか挙げて選んでもらって話し合うのもいいかなと思ったのですがいかがでしょう。

(座長) 子どもたちにアンケートをとっていただく等可能であればやっていただきたいですね。スケジュール的に難しいのであれば、言葉をうまく表現していただくのがいいかなと思います。

(渡邊指導主事) あと10日で冬休みに入ってしまうので、それまでに急いで作ってやるしかないと思うのですが…。たくさんあると余計に分からなくなってしまうので、3つくらいの中からどれがいいかと訊くのが丁度いいかなと思っています。

(座長) そのような形で、1部・2部に参加する小・中学生に3つぐらい選んで参加してもらうのがいい流れだと思いますのでよろしくお願いします。

(渡邊指導主事) それとも、3つのテーマに分けて話し合ってもらった方がいいでしょうか。

(久保寺校長) 例えば、3つ挙げて子どもたちにアンケートをとった時に、1つに絞るのか3つに分けるのか、子どもたちが選んだものでグループを作って話し合うことをよしとするのかですが…。

(座長) この辺についてですが、この後各会場に分かれて来年度に向けての熟議がありますので、その中でこの話題についても話し合っていたきたいと思います。(1つのテーマで話し合うのか、3つのテーマでテーマ毎に分かれて話し合うのか) 戻ってきたときにコメントをいただければと思います。それでは「(3) 令和7年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針について」に移ります。ご移動をお願いします。

(3) 令和7年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針について

① 各園・各校の素案についての説明及び熟議（各園・各校ごと）

- 各園・各校ごと（グループ）の進行による … 大山・玉井幼、大玉中、玉井小、大山小



② 全体共有 ※各校・園5分程度（重点事項及び変更点を中心に）

（座長） それでは、全体共有ということで、各校・園から5分程度でお話をいただきたいと思います。

ア 大玉中学校

（大玉中学校長 久保寺 徹）

今年度目指す学校像を「楽しい学校」としました。まずは、分かる・できる授業をベースとし、魅力と必要性のある学校をつくることでした。（不登校について学んだことなのですが、魅力と必要性があれば子どもは学校に来るということで、どちらか一方だけでも大きければ大丈夫）本年度は、これらを高め、生徒が楽しいと感じるとともに、やりがいのある教育が実現できる学校にしたいということを打ち出しました。

令和7年度は、このベースにプラスαして、生徒の「自己有用感」を高めること、簡単に言いますと「子どもたちの手でつくる学校」を目指したいと思います。

本校の先生方は毎日一生懸命教育活動をやってくれています。結構細かいところまで手を差し伸べて、お膳立てをしてくれています。子どもたちも満足してやってくれています。まだまだ子どもたちに任せられるところがあるのではないかと考えています。「中学生なので」という発想です。もっともっと子どもたちを信用して、もっともっと子どもたちの手でつくらせたらどうか、というふうなところを令和7年度は大きく掲げてやっていきたいなと思っております。具体的には、いろんな行事をだったり、令和8年度から変える予定の制服のデザイン決定や今まであまり手をつけていない校則の見直しにも子どもたちを関わらせる等学校の変革に取り組んでいきたいと考えています。大雑把ではございますが、以上来年度の取り組みです。

イ 大山小学校

(大山小学校長 澤藤 晃治)

熟議では、今想定されることということでお話をさせていただきました。

1つ目は、授業のことです。子どもたちのためによりよい授業をするということで、「子どもが真ん中の授業」とも言われておりますが、3～6学年については、授業交換によって教科担任制に近づく授業を行っているところです。次年度はそれをさらに進めて、授業交換を増やしていきたいと思っています。専門性が高まりますし、教員も空き時間ができますし、子どもと向き合う時間もできるというメリットがあります。中学校のように全部というのは難しいですが、3～6学年でさらに教科担任制を進めていきたいと考えています。中学校との連結もよくなりますし、winwinの関係なのかなと思っています。

2つ目は、地域の方々に様々な行事で大変お世話になっており、とても充実しておりますが、さらに、5年後も10年後も50年後も続けていけるような持続可能な新しい行事の姿を確認しながら、バージョンアップさせていきたいと…。イメージとしては、今年もそば打ちをお世話になったのですが、今年初めてそばアレルギーの子ども対象にエゴマを使った料理講座を行うことができました。今まで取り組んできた行事を見直し、しかもエゴマ関係の地域の方々に来ていただいて、たくさんお世話になりました。今後も村の方々に支えていただきながら、レベルアップしていければと思っています。

3つ目は、巷で言われていることですが、教員が子どもたちと向き合う時間を捻出するためにも働き方改革を少しでも進めていきたいと思っています。

最後に、先程のコミュニティ広場の協議テーマについてですが、全体で130人ぐらいの話し合いということですので、3つくらいテーマを作った方がその場の雰囲気も盛り上がるかなという意見が出ました。

ウ 玉井小学校

(玉井小学校長 五十嵐 洋之)

現在、学校経営の素案はできていない状態ではありますが、学校評価アンケートの集計結果や教員の思いや願い等を加味しながら、学校経営の方針を作成していきたいと思っています。熟議では学校経営の3つの柱について説明させていただきました。

1つ目が「安心・安全」を土台とした玉井ならではの教育です。子どもたちが安心・安全に過ごせること、学校職員に対する信頼が学校経営のベースですので、そこは本当に大事にしていきたいと思っています。「玉井ならではの教育」は、これまでもずっと続けてきているところではありますが、もう一度教育効果であったり、目指す子どもの姿であったり、そういったものを教職員と共通理解を図りながら着実に進めていければと思っています。できるかどうかは分からないのですが、地域の方に与えてもらっているばかりですので、学校から地域に何ができることはないかなと少しずつ考えていければと思っています。

2つ目は、「何のためにあるのか」と目的を明確にした教育活動のさらなる充実ということです。すべての活動には目的があります。目指す子どもの姿があります。これをただ計画したからやるのではなくて、そういうところをみんなで見つめ直しながら、教育活動1つ1つを積み重ねていきたいと思っています。

3つ目は、これからの学校のあり方を意識した教育活動の工夫ということです。今多様な学習の場であったり、多様な人との関わりであったり、ICT等の新しい学習内容であったりとたくさん入っています。そういったものを系統的に計画的に進めていきたいと思っています。先程、澤藤校長先生がおっしゃったのですが、先生方が心身共に健康で子どもたちにしっかりと向き合えるように、また、その時間を確保するために学校の働き方改革を進めていきたいと思っています。

そういったことを踏まえて、次年度の教育目標は今年度と同じですが、目指す児童像をより具体的にし、教職員でそこを目指して取り組んでいきたいと考えております。学習面では、「自ら～」というところ、「共に高め合う」というところ、「徳」の部分では、「やさしさ」と「強さ」がキーワードになってくるのかなと考えております。「体」の部分では、「健康に主体的に働きかける子ども」を具体的な子ども像として教育活動を進めていきたいと思っています。

続いて、「子どもたちのあいさつがとても気持ちいい」というお褒めの言葉をいただきました。継続してこれからも取り組んでいきたいと思っています。また、縦割り活動を充実させたいの

ではないかというご意見をいただきました。上の学年に憧れをもったり、目指す姿としてとらえるためには本当に有意義な活動だと思いますので、充実させていきます。本校の課題として挙げられる体力向上についても、スポ少との関わりも考えられるのではないかとご意見をいただきました。学校以外の体育的活動も充実させて、声をかけていけるのではないかと考えております。

また、地域の方を招いての体験活動がたくさんあるのですが、1つ1つの活動にとどまらせないで、いろんな教科と関連させながら一連の流れでトータル的に考えて進めると、子どもたちの力というか郷土愛が育まれる生活につながるのではないかとご意見もいただきましたので、そういったことを加味しながら学校経営案、教育計画を立てていきたいと思っております。

エ 大山幼稚園

(大山幼稚園副園長 二瓶 博子)

大山幼稚園は、子どもたちの姿から「言葉での伝え合い」が課題としてあげられています。年少、年中、年長、それぞれの学級でいろいろな課題がありました。そういった現状から、課題解決のためには、幼児に具体的な言葉の伝え方を教えたり、家庭においても絵本の読み聞かせを行ったりしてたくさんの言葉にふれるようにする等、保護者のヒントとなるようなことを幼稚園から発信すると共にその発信の仕方についても来年は具体的に考えていきたいと考えております。

やはり幼稚園というと、幼児期は家庭での保育というのがすごく大きく関わってきます。幼稚園だけでは育たないですし、保護者の協力がなくては育たないので、来年も保護者との連携を重視していきたいと考えています。

その中でも、今年度幼児の発達・育ちを具体的に保護者に伝える手段として個別懇談を年2回に増やして行ってきたのですが、大変効果的でした。来年度も引き続き保護者に伝える手段(＝効果的に伝えるにはどうしたらいいか)を考えていきたいと思っております。先程の熟議でもいろいろお話をいただき、「親育て」ということについてたくさんご意見をいただきました。来年は講演会を行って、保護者に具体的なお知らせをしていきたいと思っています。

もう1つは、幼稚園では幼児の自発的な遊びとその中で学んでいくということを大切にしたいということで、自発的な遊びに対して教師がどんなふうに捉えて、環境構成や援助をしていくのが望ましいのかについて研究・実践していきたいと考えています。子どもたちは、遊びの中からたくさんのことを学んでいるということに教師と保護者が気づかなければ、学びが伸びていかないということもありますので、さらにその学びにつながる援助となるように考えていきたいと思っています。

また、小学校との架け橋期(年長～小1)として必要なことを遊びの中から学んで、自分に自信を持って就学につないでいきたいと考えておりますので、その辺も来年のビジョンの方に入れていきたいと考えております。

現在、学校評価アンケート集約中ですので、アンケートの中のご意見とか今年度は第三者評価も行っていたので、その辺も参考にさらに園長、職員と話し合いを行ってビジョン作成をしていきたいと思っております。

オ 玉井幼稚園

(玉井幼稚園副園長 後藤 弥和子)

玉井幼稚園でも、先生たちと本年度の取り組みや次年度の課題について話し合っているところです。完成形にはまだまだほど遠いですが、大山幼稚園のお話にもあったように保護者アンケートの集計結果を職員で検討し、さらに詰めていきたいと考えています。

令和6年度は、今年度と来年度の2年間で「子どもたちの主体性を育てる」ということを重視していくという考えで教育を進めてきました。来年度には県北ブロックのちょっと大きな規模の公開保育がありますので、そちらに向けて2年間継続して研究を進めていきます。

課題としては、子どもたちが自分でできることでもなかなかそれがうまくできないとか、保護者が先回りをしてしまうということもあつたりします。子どもたちの自主性を育てるためにはどのよ



うにしていけばいいのか、保護者にどのように伝えていけばいいのか等も考えながら進めていきたいと思います。幼稚園でできることは家でもできるし、保護者に向けてどのように伝えていったらいいかについても詰めていきたいと思っています。

幼稚園での子どもたちの姿を見ていると、話を最後まで集中して聞けないところがあります。また、何かあった時に「どうしてそうなったの？」と尋ねても答えられず、目をそらしたり、固まってしまったりする姿が見られます。心のたくましさにもつながってくることで、自分で話を最後まで聞いて思いを伝えられるよう支援をしていきたいと思っています。

次に、これまでの成果なのですが、「子どもたちがいろいろなことに挑戦できるように」と先生方が考え進めてきたことによって、様々な効果が生まれています。それが自主的に遊ぶ姿、遊びこむ姿につながっていくのではないかと思います。「次にこんなことをやってみたい」という思いが次のステップにつながるので、安全面に配慮しながら園全体で職員の見守り体制とか計画を立てて進めていければと思います。また、子どもたちの主体性をさらに育てるために、一人一人を大切にするとともに、環境構成や教材を工夫したり、効果音を使った遊びをこれからも引き続き取り入れたりしていきたいと考えています。

最後にコミュニティ広場のテーマについてですが、アンケートをするのもいい方法かと思ったのですが、時間がないということなので、今年度は「学ぶ」と「仲よく」の2つのテーマに絞って話し合いを行ってはどうかという意見が出ました。子どもたちも話をしやすいのではないかと思います。また、今回のアンケートに次年度はどんな話をしたいのかという文言を入れて準備すれば、次年度スムーズにいくのではないかと思います。

③ それぞれの各校・園に対する質疑応答

(座長) ありがとうございます。各校長先生、副園長先生からご説明がありました。皆さんから何かありましたらお願いします。

(CS委員)・・・特にない様子・・・

(座長) 後藤副園長先生からテーマとして「学ぶ」、「仲よく」というシンプルな案が出ました。来年度のテーマについてはアンケートに盛り込むという意見も出ましたので、うまくやっていければと思います。

正式な承認日は2月になると思います。先生方、来年度のビジョンづくり等よろしく願います。それでは、特にないようですのでこれで協議を閉じさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

6 その他

- コミュニティ・スクール研究大会 in 金沢のアーカイブ放送について
- コミュニティ広場のテーマは次回提案する。事務局で決めさせていただきたい。
- 今後の予定について

7 閉会のことば

(CS委員会副会長 館下 愛理)

みなさん、お疲れさまでした。以上をもちまして令和6年度第7回おおたま学園CS委員会を終了いたします。本年最後になりますが良いお年をお迎えください。寒いのでお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。